

令和7年度広島大学特別支援学校教諭免許法認定講習

シラバス

1) 視覚障害者の心理・生理・病理

開設科目（授業科目）		視覚障害者の心理・生理・病理（R7 認定講習）
講師		広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 氏間和仁
開講期日		令和7年8月9日～10日
視覚障害（盲・弱視）のある幼児児童生徒の起因疾患と発達及び心理学に基づいた評価及びそれらの理解に欠かせない解剖・生理の内容について学習する。これにより、視覚障害の状態やその評価、発達及び認知の特性を理解することを目指す。また、視覚障害のある幼児児童生徒の発達支援に関連して、家庭や関係機関との連携についても理解を深める。		
一 日 目	8:45-9:00	オリエンテーション
	講義 1 (9:00-10:30)	視覚障害の概要
	講義 2 (10:45-12:15)	視覚に関する器官の構造と機能
	講義 3 (13:15-14:45)	視覚障害教育で遭遇する眼疾患
	講義 4 (15:00-16:30)	機能的視覚の心理学に基づいた評価（理論的背景）
二 日 目	講義 5 (9:00-10:30)	機能的視覚の心理学に基づいた評価（分離閾の評価演習）
	講義 6 (10:45-12:15)	弱視のある子供の発達と支援（分離閾を用いた支援の演習）
	講義 7 (13:15-14:45)	盲のある子供の発達と支援（移動・触察の演習）
	講義 8 (15:00-16:30)	視覚障害のある児童生徒と家庭・関連機関との連携（前半） 試験（後半）

【携行品】

- ・電卓を利用します。スマートフォンの電卓をご準備ください。

2) 聴覚障害者の教育課程及び指導法

開設科目（授業科目）		聴覚障害者の教育課程及び指導法（R7 認定講習）
講師		広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 新海晃
開講期日		令和7年12月6日～7日
講 義 内 容		
聴覚障害教育における教育制度・システムに関する基礎的事項（教育課程，教育機関の機能・役割等）について学習するとともに、聴覚障害教育の現状について理解を深める。また、障害の特性や心身の発達段階、言語心理検査の活用と実態把握，言語・コミュニケーションの観点から聴覚障害児の教育・指導法について学習する。		
一 日 目	8:45-9:00	オリエンテーション
	講義 1 (9:00-10:30)	聴覚障害に関する基礎的事項／特別支援学校学習指導要領と教育課程
	講義 2 (10:45-12:15)	聴覚障害児を対象とする教育機関とその特徴
	講義 3 (13:15-14:45)	聴覚障害教育の現状と動向
	講義 4 (15:00-16:30)	聴覚障害教育におけるコミュニケーション手段
二 日 目	講義 5 (9:00-10:30)	聴覚障害児の教育・指導・支援（1）発達的特徴と実態把握
	講義 6 (10:45-12:15)	聴覚障害児の教育・指導・支援（2）教科の指導と配慮事項
	講義 7 (13:15-14:45)	聴覚障害児の教育・指導・支援（3）自立活動／教科学習と自立活動
	講義 8 (15:00-16:30)	聴覚障害児とことばの育ち（前半） 試験：レポート提出（後半）

【携行品】

特にありません。

3) 知的障害者の心理・生理・病理

開設科目（授業科目）		知的障害者の心理・生理・病理（R7 認定講習）
講師		広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 朝岡寛史
開講期日		令和7年12月26日～27日
講 義 内 容		
知的障害のある幼児児童生徒の病理、心理及び生理の特徴について学習する。これらの特徴を踏まえて、知的障害の心理学的アプローチ（アセスメントと指導の基礎理論）の実際に触れながら、実践に生きる知識の修得を目指す。また知的障害児の発達支援に関連して、家庭や関係機関との連携についても理解を深める。		
一 日 目	8:45-9:00	オリエンテーション
	講義 1 (9:00-10:30)	「ひと」の発達と理論／知的障害の定義とその分類
	講義 2 (10:45-12:15)	知的障害の病理と臨床像（ダウン症、自閉スペクトラム症など）
	講義 3 (13:15-14:45)	知的障害の心理学的アプローチ（1）フォーマルアセスメント
	講義 4 (15:00-16:30)	知的障害の心理学的アプローチ（2）インフォーマルアセスメント
二 日 目	講義 5 (9:00-10:30)	知的障害の心理学的アプローチ（3）行動理論
	講義 6 (9:00-10:30)	知的障害の心理学的アプローチ（4）教育実践への適用
	講義 7 (9:00-10:30)	知的障害児に対する発達支援（家庭や関係機関との連携）
	講義 8 (15:00-16:30)	知的障害児と「ことば」（前半） 試験（後半）

【携行品】

講義中に演習を実施するため、筆記用具・メモ用紙をご準備ください。

4) 肢体不自由者の心理・生理・病理

開設科目（授業科目）		肢体不自由者の心理・生理・病理（R7認定講習）
講師		広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 船橋篤彦
開講期日		令和7年12月20日～21日
講 義 内 容		
肢体不自由のある幼児児童生徒の起因疾患と心理発達及び生理的变化の特徴について学習する。これにより、肢体不自由の状態や感覚機能の発達、知能の発達及び認知の特性を理解することを目指す。また、肢体不自由児の発達支援に関連して、家庭や関係機関との連携についても理解を深める。		
一 日 目	8:45-9:00	オリエンテーション
	講義 1 (9:00-10:30)	肢体不自由の原因となる疾患①（脳性疾患と筋疾患）
	講義 2 (10:45-12:15)	肢体不自由の原因となる疾患②（脊椎疾患と骨疾患）
	講義 3 (13:15-14:45)	肢体不自由者における姿勢・運動機能の発達（心理・生理的变化）
	講義 4 (15:00-16:30)	肢体不自由者における感覚・認知機能の発達
二 日 目	講義 5 (9:00-10:30)	肢体不自由者における情動・社会性の発達
	講義 6 (10:45-12:15)	肢体不自由者におけるコミュニケーション発達
	講義 7 (13:15-14:45)	肢体不自由者に対する包括的発達支援（家庭や関係機関との連携）
	講義 8 (15:00-16:30)	医療的ケア児の支援に向けて（前半） 試験：レポート提出（後半）

【携行品】

講義中に演習を実施するため、筆記用具・メモ用紙・イヤホンをご準備ください。

5) 病弱者の心理・生理・病理

開設科目（授業科目）		病弱者の心理・生理・病理（R7 認定通信）
講師		広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 村上理絵
開講期日		令和7年7月19日～20日
講義内容		
病弱教育の対象となる幼児児童生徒の心理発達及び生理的変化の特徴について学習し、院内学級等での教育支援など病弱者教育の実際に触れながら、実践に生きる知識の修得を目指す。また、病弱教育では、「学習の空白を埋める」ことが大きな教育目標となる。院内学級と原籍校や、学校と医療との連携の在り方、保護者やきょうだいが抱える不安、病気理解と自己理解についても学ぶ。		
一 日 目	8:45-9:00	オリエンテーション
	講義 1 (9:00-10:30)	病弱の生理・病理 1 小児がん、腎臓病、進行性筋ジストロフィー等の原因と治療
	講義 2 (10:45-12:15)	病弱の生理・病理 2 心臓病、重複障害等の原因と治療
	講義 3 (13:15-14:45)	病気に関する病弱者の悩みや不安
	講義 4 (15:00-16:30)	学校や学習に関する病弱者の悩みや不安
二 日 目	講義 5 (9:00-10:30)	病弱者の病気理解と自己理解
	講義 6 (10:45-12:15)	保護者やきょうだいの心理について
	講義 7 (13:15-14:45)	学校における配慮事項 教科指導・生活指導
	講義 8 (15:00-16:30)	教育と医療との連携（前半） 試験：レポート提出（後半）

【携行品】

講義中にディスカッションを実施するため、筆記用具とメモ用紙をご準備ください。

6) 重複・発達障害等の心理と指導法

開設科目（授業科目）		重複・発達障害等の心理と指導法（R7 認定講習）
1 日目 講師		国立特別支援教育総合研究所 上席総括研究員 長江清和
2 日目 講師		国立特別支援教育総合研究所 総括研究員 大崎博史
開講期日		令和7年8月23日～24日
講 義 内 容（1 日目）		
発達障害教育は、小・中学校及び高等学校等で大きな課題となっている。発達障害のある児童生徒の病理・心理・生理面の特徴とそれらの相互作用並びに二次的な障害についての理解が必要である。また、教育課程の編成の方法やセンター的機能についても理解が必要である。さらに、障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を踏まえた各教科等の指導における配慮事項を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける内容とする。		
講 義 内 容（2 日目）		
重複障害教育は、複数の障害を併せ有する児童生徒を対象とする教育である。本講義では、重複障害の概念、教育課程の編成、実態把握と指導、将来を見据えた指導のあり方等、重複障害のある子供の教育を考える時に必要な事項について学習し、重複障害教育に関する知識及び理解を深める。		
一 日 目	8:45-9:00	オリエンテーション
	講義 1 (9:00-10:30)	発達障害の定義及び診断（学校現場における発達障害の課題を含む）
	講義 2 (10:45-12:15)	自閉スペクトラム症（ASD）について
	講義 3 (13:15-14:45)	時局性学習症（SLD）と注意欠如多動症（ADHD）について
	講義 4 (15:00-16:30)	発達障害と合理的配慮（ICT の活用を含む）（前半） 試験（後半）
二 日 目	講義 5 (9:00-10:30)	重複障害の基礎知識（重複障害の概念）
	講義 6 (10:45-12:15)	重複障害のある子供に応じた教育課程
	講義 7 (13:15-14:45)	重複障害のある子供の実態把握と指導
	講義 8 (15:00-16:30)	重複障害のある子供の将来を見据えた指導のあり方（前半） 試験（後半）

【携行品】

<使用テキスト>

（独）国立特別支援教育総合研究所著

「特別支援教育の基礎・基本（第4版）」（ジアース教育新社、2,700 円＋税）

<その他>

- ・ 講義終了後の試験は、自らがまとめたノート、筆記具以外は、全て持ち込み不可とします。
- ・ 試験の実施にあたり、配慮を必要とする方は、予めお申し付けください。